

●公益事業（公益目的事業会計）

I 次代を担う青少年の健全な育成に資する事業（公1）

1. イオン チアーズクラブ

(1) 地域での活動

① 標 題：イオンチアーズクラブ通常活動

② 活動概要：各地域の小中学生が、イオングループ国内420の事業店舗を主な拠点とする「チアーズクラブ」に入会し、「環境・社会」をテーマに体験学習を行うことを通して、学ぶことの楽しさや社会のルールやマナーに沿った行動を身に着ける場とする。また、子どもたちが、各地域の大人たちと一緒に活動に取り組み、地域を元気づける存在になることを目指す。

*ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンラインセミナー等の代替活動を適宜計画の上、実施

③ 実施期間：2022年4月1日（金）から2023年3月31日（金）

④ 参加対象：日本国在住の小学1年生から中学3年生までの児童・生徒

⑤ 重点取組：稼働クラブ数の増加（年間昨年対比122%目標）
1クラブあたりの年間活動回数の増加（全クラブ年4回以上）
全国統一企画 川柳コンテストの実施（5～7月に実施予定）
*新型コロナウイルス感染拡大の現況に照らして上記本年度の目標を設定

① 標 題：イオンチアーズクラブ農業体験・ファーマーズプログラム

② 活動概要：単日の農業体験（農業体験プログラム）と、耕地、種蒔きから収穫までを一貫して行う活動（ファーマーズプログラム）を実施予定。
全国展開に向け連携する団体、NPOの多様化を図る。

③ 実施期間：2022年4月1日（金）から2023年3月31日（金）

④ 参加対象：イオンチアーズクラブに加入している小中学生

⑤ 重点取組：ファーマーズプログラムを全国11か所で開催。
連携農場の選定について、本年度も引き続き検討。

*ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、ビデオ教育実施等、運営方法を変更する可能性有

(2) エリア交流会

① 標 題：エリア交流会

② 活動概要：全国9エリアに分かれて、エリア内の他クラブとの相互交流や合同体験活動を行う。農業体験や企業訪問（職場体験）などを通して、クラブ間の関係強化と活動のレベルアップを図る。

③ 実施期間：2022年4月～11月末

<9地区>北海道、東北、北関東（埼玉、茨城、栃木、群馬）、南関東（東京、神奈川、千葉、山梨）、北陸信越、東海、近畿、中四国、九州・沖縄

④ 重点取組：各エリアの特性に応じたプログラムを策定し、近隣のクラブ同士を参加させることで、地場産業への理解を深め、同時に他クラブとの一体感を得られる場とする。

*ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況に基づき、実施の可否はエリアごとに判断

2022年度事業計画書

2. 中学生作文コンクール

- ① 標 題：イオン中学生作文コンクール（*食に関するシリーズとしては6回目）
- ② 活動概要：全国の中学生を対象に「持続可能な食」をテーマとした作文を募る。事前のオンライン講義に基づき、応募者が自主学習を行い、その結果が文章に反映出来るようにする。各都道府県の教育委員会、こどもエコクラブ、イオン チアーズクラブ等を通じて全国の中学生へ告知し、表彰式・研修ツアーを開催。
各賞：金 賞 食育ツアーに招待・図書カード贈呈3万円（10名）
銀 賞 図書カード贈呈1万円（10名）
参加賞 図書カード贈呈1千円（100名）
後援：文部科学省、農林水産省（*いずれも予定）
- ③ 実施期間：2022年6月～11月（*作文募集は、7月下旬～8月下旬）
- ④ 参加対象：日本全国各地に在住の中学生
- ⑤ 重点取組：公的機関の取り組みとの連動を図り、当財団の活動内容の充実と対外発信力の強化につなげることで、認知度の向上を図る。
（例. 農林水産省における食育の取り組みとの連動～同省の媒体等での当財団の活動紹介等）

3. イオン エコワングランプリ

- ① 標 題：第11回 イオン エコワングランプリ
- ② 活動概要：全国の高校又は高校生が取り組んでいる環境保全活動を募集し顕彰。応募内容を事例集として刊行、全国の高校に配布し、活用を呼び掛けることで活動の普及を目指す
1) 「普及・啓発部門」・「研究・専門部門」の2部門で募集を行う。
2) SNSの活性化を推進し、高校生同士の情報交換、好事例の共有等が頻繁に行われるような環境を築き、学校単位での環境保全活動の定着と拡大を目指す。
共催：毎日新聞社、（公財）イオン環境財団
後援：内閣府、文部科学省、環境省
協力：全国高等学校長協会、（公財）産業教育振興中央会
特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）
- ③ 実施期間：2022年4月～9月末（予定）募集
2022年 10月中旬（予定）1次選考
2022年 11月（予定）2次選考、最終審査会
2022年 12月（予定）表彰式・優秀事例発表
- ④ 参加対象：日本国内の全国の高等学校または生徒
- ⑤ 重点取組：1) エリアミーティングを開催。応募実績のない高校も含めて参加校を募り、歴代入賞校による活動内容の紹介や相互の情報交換を行うことで、各校の活動レベル向上と新規応募の促進を図るもの。
本年度は、首都圏で2回開催予定（*7月中旬～8月下旬）
2) 過去のエコワングランプリ（*内閣総理大臣賞）受賞校が、自らの研究・開発の成果を生かして、イオン環境財団の活動参加校の環境保全活動を支援する取り組みを開始。

2022年度事業計画書

- 3) 過去、及び前年のグランプリ受賞校の活動内容の紹介を本年度の募集に先立って行い、この取り組みの理解を深めるとともに、ホームページを活用した新たな募集を実施予定。
- 4) 過年度受賞校の在校生及び卒業生の活動状況を調査しSNSにて紹介。

4. 学校建設支援

- ① 標 題 : ミャンマー学校交流事業
- ② 活動概要 : 2012年から2021年までの9年間で66校の建設支援を行ってきたが、未だに同国の地方各州には支援が及んでいない状況にある。
東部カレン州において、国際NGOアドラ・ジャパンと連携し、2019年度より3年間で15校の建設支援を行うとともに、(公財)日本ユニセフ協会と連携し、本事業で2012年から2015年に建設支援を行った同州コーカレイ村の小学校について、教員研修の支援を実施する計画。これに先立ち、以下の内容で全国募金を実施。本年度は、3か年計画の最終年度であった昨年度の未実施事項のフォローを図る位置付け。
- ③ 実施期間 : 2022年9月17日(土)～10月16日(日)
- ④ 参加対象 : 【募金による支援対象】・東部カレン州に新たに校舎を建設する小学校
・2012年から2015年に建設支援を行った同州コーカレイ村の小学校 (*教員研修支援)

【募金活動次第】

- 募金活動名 : ミャンマー学校建設支援募金
募金受付方法 : ホームページ、及び、募金実施協力事業所での募金受付
贈呈先 : 特定非営利活動法人 ADRA Japan
公益財団法人 日本ユニセフ協会

《募金目論見書》

- 募金目的 : ミャンマーにおける学校建設支援
募集総額 : 12,000千円
募集期間 : 2022年9月17日(土)～10月16日(日)
募集理由 : 老朽化した校舎での勉強を余儀なくされているミャンマーの子どもたちの学習環境の改善を支援する。
資金使途 : 全額学校建設資金、及び教員研修に充当
その他 : 募集総額に当財団が一定額を上乗せ加算し、学校建設支援及び教員研修に充当。

- ⑤ 重点取組 : 芝・増上寺で開催されるミャンマー祭り、あるいは在日ミャンマー大使館で、贈呈式を実施。(予定)

*本事業については、ミャンマー国内情勢によっては、変更の可能性有

5. イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

- ① 標 題 : イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン
- ② 活動概要 : カンボジア、ミャンマーにおいて、汚れた水や衛生環境は、子どもたちの命に関わる重大な問題の一つである。また、学校建設支援を進めてきた地域では、小学校高学年(4年、5年)になると、学校での欠席率が上昇。その理由は水汲みを中心とした家事手伝いであり、しかもその多くは、

2022年度事業計画書

不衛生な水であり、健康・衛生面からも改善が急務。本キャンペーンを通じ、そうした子どもたちが暮らす村や町に、給水施設を設置していくことで、子どもたちを教育面、健康面から支援。

- ③ 実施期間：2022年4月9日（土）～2022年5月8日（日）
- ④ 対象地域：カンボジア：コンポンスプー州、ラタナキリ州、スヴァイリエン州、
タケオ州
ミャンマー：カレン州

以下の内容で全国募金を実施。

募金活動名：イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン
募金受付方法：ホームページ、募金実施協力事業所での募金受付
贈呈先：公益財団法人 日本ユニセフ協会

《募金目論見書》

募金目的：カンボジア、ミャンマーにおける給水施設支援
募集総額：12,000千円

- ⑤ 募集期間：2022年4月9日（土）～2022年5月8日（日）
募集理由：水汲みを中心とした家事手伝いに追われて学校を欠席しがちな子ども達が暮らす村や町に、給水施設を設置することで、子どもたちを教育面、健康面から支援。
資金使途：全額給水施設支援に充当
その他：募集総額に当財団が一定額を上乗せ加算し、給水施設支援に充当。
- ⑥ 重点取組：カンボジア、ミャンマーそれぞれの大使館で贈呈式を行い、駐日大使へ活動内容を報告。

II 諸外国との友好親善の促進に資する事業（公2）

1. 高校生国際交流

(1) 日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー

- ① 標 題：日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー
- ② 活動概要：日本と中国の高校生が相手国を相互訪問し、表敬活動、交流活動、歴史・文化活動を通じて価値観の多様性を認識すると共に、国際的な相互理解、親交を深める。「日中文化・スポーツ交流推進年」事業として外務省に認定申請の上、両国友好関係の強化に寄与すべく交流を促進する。
尚、日本側の交流参加高校は、公募に申込んだ高校の中から、外部委員による選考委員会にて決定。
- ③ 実施期間：中国派遣 2022年 7月 4日（月）～10日（日）
日本招聘 2022年10月 3日（月）～ 9日（日）
*ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては変更の可能性有
- ④ 参加対象：日本高校生：50名（*2020年度参加予定の5校にて調整中）
中国高校生：北京市、蘇州市 計50名
- ⑤ 重点取組：【日本】
 - 1) 首相官邸表敬訪問
 - 2) 外務省「日中文化・スポーツ交流推進年」認定事業に申請
 - 3) 在日中華人民共和国大使館にて質問会および歓迎会の開催

2022年度事業計画書

4) ドキュメント映像作品を制作予定

【中国】

- 1) 中国外交部への表敬訪問
- 2) 北京市政府、蘇州市政府への表敬訪問
- 3) 在中華人民共和国日本国大使館にて質問会および歓迎会の開催
- 4) ドキュメント映像作品を制作予定

(2) 日本 アセアン ティーンエイジアンバサダー

① 標 題：日本 アセアン ティーンエイジアンバサダー

② 活動概要：日本とアセアンの高校生が相手国を相互訪問し、表敬活動、交流活動、文化・歴史理解活動を通じて、価値観の多様性を認識すると共に、国際的な相互理解、親交を深める。又、海外の訪問先での日本人組織との交流を通じて相手国の文化や価値観をより多面的に理解し、双方の友好親善の促進につなげる。

なお、日本側の交流参加高校は、公募申込のあった高校の中から、外部委員による選考委員会にて決定。

③ 実施期間：日本招聘：2022年11月7日（月）～11月13日（日）

マレーシア派遣：2023年1月16日（月）～1月22日（日）

*ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては変更の可能性有

④ 参加対象：日本高校生：2校20名（*2020年度参加予定校にて調整中）

マレーシア高校生：2校20名

⑤ 重点取組：【日本】

- 1) 外務省表敬訪問
- 2) 在日マレーシア大使館にて質問会および歓迎会の開催
- 3) ドキュメント映像作品を制作予定

【マレーシア】

- 1) マレーシア外務省への表敬訪問予定
- 2) 在マレーシア日本国大使館にて質問会および歓迎会の開催
- 3) ドキュメント映像作品を制作予定

2. アジア ユースリーダーズ

① 標 題：アジア ユースリーダーズ

② 活動概要：日本を含むアジア8カ国の高校生が日本（*東京以外の地区）に集まり、各国に共通する環境・経済・社会の問題について英語でディスカッション・発表を行う。価値観の多様性の理解、同世代の人的ネットワーク構築、問題解決に向けた論理展開力の錬成により、次代を担うグローバルリーダーに必要な資質を身につけることを目指す。

③ 実施期間：2022年8月23日（火）～8月26日（金）

*ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては変更の可能性有

④ 参加対象：インドネシア、カンボジア、タイ、中国、日本、ベトナム、ラオス、マレーシア

2022年度事業計画書

- ⑤ 重点取組：新規3か年計画の第2弾（*2年目）。本年度は、「脱炭素社会の実現に資する持続可能な食の未来づくり」について、消費の視点から、より深耕を図る。事前課題、事前勉強会などの学習プログラムを充実させ、議論のレベルがチーム（*参加国の異なるメンバーで編成）間で不均衡にならないよう努める。

3. イオン スカラシップ（奨学金）

(1) 日本での奨学金

- ① 標 題：イオン スカラシップ（国内）
- ② 活動概要：日本で学ぶアジア各国からの留学生への奨学金支給
授与式と集合研修を実施し、各自の夢の実現に向け奨学生同士のネットワーク形成と、価値観の多様性を理解し受容する素地を醸成
【支援内容】2年目となる継続生30名の他、1大学2名もしくは3名、計33～37名の新規生を加えた留学生を支援。1名につき、授業料の全額、及び生活費補助10万円（月額）を支給。給付期間は原則として2年間。
- ③ 実施期間：新規生選考5月
【選考方法】各大学から推薦された候補学生の中から、外部選考委員による委員会にて決定。但し、国際大学は「渡日前選考方式」により奨学生を決定。
【認定証授与式及び第1回スカラシップセミナー】
2022年7月16日（土）
*イオン スカラシップセミナーは年間2～3回実施（不定期）
- ④ 対象大学：北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、早稲田大学、上智大学、慶應義塾大学、国際大学、名古屋大学、京都大学、神戸大学、流通科学大学、九州大学、計14大学
- ⑤ 重点取組：
・中国・アセアンにおける提携大学での受給生、もしくは在学生の日本留学ニーズについて掘り起こし、新たな支援につなげる
・並行して、国際大学と同様に、「渡日前選考方式」の実施が可能な大学の掘り起こしと検討を行う

(2) 中国での奨学金

- ① 標 題：イオン スカラシップ（中国）
- ② 活動概要：中国国内で学ぶ大学生への奨学金の支給。
11月～12月の間に各大学で奨学金授与式を実施。奨学金の一環として、5月に当財団の冠名で、北京大学、清華大学、北京第二外国語学院、青島大学、中国海洋大学、武漢大学、深圳大学で日本語スピーチコンテストを開催。上位入賞者は8月に日本研修を実施。また、7月に南開大学の日本への短期留学プログラムの協賛、11月に北京第二外国語学院の全国通訳大会の協賛、在中国日本大使館が主催する、北京で暮らす日本人留学生と同世代の北京市大学生が「20歳」になることを祝い、交流する「日中友好成人式」も協賛。

2022年度事業計画書

③ 実施期間：(1)スピーチコンテスト

2022年5月～6月

(2)奨学生選考

2022年9月～10月

(3)認定証授与式

2022年11月～12月

*ただし、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては変更の可能性有

④ 参加対象：北京大学、清華大学、北京第二外国語学院、南開大学、青島大学、 中国海洋大学、武漢大学、深圳大学、中山大学 計9大学

⑤ 重点取組：1) 本奨学金事業の一環として各大学で開催しているスピーチコンテスト の上位入賞者の中で、日本で学びたいが経済的な理由で学ぶことが できない(中国人)学生について支援を行う。

2) 渡日前選考の方策について、並行して検討

(3) アセアンでの奨学金

① 標 題：イオン スカラシップ (アセアン)

② 活動概要：アセアン各国内で学ぶ大学生への奨学金の支給。各国12月を目途に授与 式を実施。当財団の事業が奨学生の住む地域で実施された場合に参加を 要請し、友好親善を促進

③ 実施期間：奨学生選考9月～11月 (*各地域の新学期開始時期に合わせる)

【選考方法】各国ともに、各大学からの推薦を受けて選考

④ 対象大学：国別大学名および支援内容

タイ (2, 450千円) :	給付人数 32名
チュラロンコーン大学	21, 875 THB × 16名
タマサート大学	21, 875 THB × 16名
ベトナム (4, 071千円) :	給付人数 100名
ホーチミン人文社会科大学	435 USD × 10名
ホーチミン教育大学	435 USD × 10名
ホーチミン経済大学	435 USD × 20名
ハノイ人文社会科大学	300 USD × 20名
ハノイ貿易大学	300 USD × 20名
ベトナム国家農業大学	300 USD × 20名
インドネシア (3, 450千円) :	給付人数 24名
インドネシア大学	1, 250 USD × 12名
ボゴール農科大学	1, 250 USD × 12名
カンボジア (3, 588千円) :	給付人数 24名
王立プノンペン大学	1, 300 USD × 12名
国立経営大学	1, 300 USD × 12名
ミャンマー (4, 370千円) :	給付人数 120名
ヤンゴン経済大学	300～700 USD × 60名
ヤンゴン外国語大学	200～500 USD × 60名

2022年度事業計画書

- ⑤ 重点取組：1) ミャンマーについては、昨年に予定していたMOU改定が新型コロナウイルス感染拡大等により2年ずれ込み。上記2大学間の支給額格差是正や大学ごとの支援人数、対象学年などに関する見直しを行う。
2) 渡日前選考の方策について、並行して検討

Ⅲ 地域社会の持続的発展に資する事業（公3）

1. 災害復興支援

(1) 緊急災害復興支援

- ① 標 題：緊急災害復興支援
② 活動概要：国内外で発生した大規模自然災害に対する復興支援。復興支援金の贈呈式を実施。

(2) 首里城復興支援

- ① 標 題：首里城復興支援
② 活動概要：2019年10月31日未明に発生した大規模な火災により、甚大な被害を受けた世界遺産の首里城（沖縄県那覇市）の再建を支援。復興支援金の贈呈式を、毎年10月中を目途に実施。
（*2022年：1億円、2023年：1億円、2024年：9千万円をそれぞれ贈呈の予定。）

2. ふるさと未来支援

(1) 地域文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援

- ① 標 題：地域文化・伝統工芸技術の普及啓蒙・継承支援
② 活動概要：日本各地の地域固有の伝統行事・文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援。特に後継者育成に向け、青少年向けの広報・実技披露活動等を支援。支援案件は公募に申込みがあった案件の中から、外部委員による選考委員会にて決定。
（支援条件）
1) 当該地域固有の伝統文化・工芸技術であること。
2) 特定企業の従業員の参加を補助するものでないこと
③ 実施期間：2022年4月1日（金）から2023年3月31日（金）までの行事、文化継承事業
④ 参加対象：日本国内の行事・文化継承事業運営者、ならびにその団体
⑤ 重点取組：寄付企業との関係をより深め、各地域の伝統行事や衣食住に関わる文化・風習等の振興や継承支援を強化。

(2) イオン すくすくラボ

- ① 標 題：イオンすくすくラボ
② 活動概要：各地域の子育て世代の親子を対象に、育児に関するセミナーの開催や個別相談と古き良き日本の童謡・唱歌の継承を目的としたコンサートの二部で構成。二部では、参加者に近隣の未就学児を加え、活動を強化。
（内容）
第一部：子育てセミナー 第二部：童謡・唱歌コンサート
③ 実施期間：2022年4月1日（金）から2023年3月31日（金）の中で実施
④ 参加対象：開催地域内の未就園児（0～3歳児）とその家族
⑤ 重点取組：セミナー単独形式の事業パターンも実施を検討

2022年度事業計画書

(3) イオン ふるさと発見伝

- ① 標 題：イオンふるさと発見伝
- ② 活動概要：中学生に向け、神社や名所旧跡などを舞台に女優 浅野温子氏による地域民話の読み語りを実施。行政・教育委員会と連携し、参加中学校の授業の一環として開催。2012年に東北の復興支援事業として開始、2015年より開催地域を全国各地に拡大
- ③ 実施期間：2022年度は9月～10月に1回実施予定。（*開催場所は検討中）
- ④ 参加対象：開催地域の中学生（*状況により小学生・高校生・地域住民を含める場合あり）
- ⑤ 重点取組：幅広い地域行政との連携を確立（*県、市区町村）

3. 公益団体への支援

(1) 青少年育成活動団体への支援

- ① 標 題：札幌PMFの支援
- ② 活動概要：公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会へメインスポンサーとして協賛。
- ③ 実施期間：2022年7月16日（土）～8月2日（火）（予定）
- ④ 支援対象：公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

- ① 標 題：セイジ・オザワ松本フェスティバルへの支援
- ② 活動概要：セイジ・オザワ 松本フェスティバルを支援。当財団はプラチナ会員。
- ③ 実施期間：2022年8月13日（土）～9月9日（金）（予定）
- ④ 支援対象：公益財団法人 サイトウ・キネン財団

- ① 標 題：仙台国際音楽コンクールへの支援
- ② 活動概要：仙台国際音楽コンクールを支援。（*特別協賛）
- ③ 実施期間：2022年5月21日（土）～6月26日（日）（予定）
- ④ 支援対象：仙台国際音楽コンクール組織委員会
*本コンクールは3年に1度の開催

(2) アジア障がい者支援募金

- ① 標 題：アジア障がい者支援募金
- ② 活動概要：社会保障制度が未発達なアジアの国・地域では、身体的障がいにより、教育を受けることができなかつたり、仕事に就くことができない、若い障がい者が大勢いる。
本事業では、こうした障がい故に貧困に陥っている若者の自立を支援する団体等に対して支援を行うことで、貧困がもたらすさまざまな社会問題の解決に取り組む。
- ③ 実施期間：2023年1月11日（火）～2月10日（金）
- ④ 支援対象：身体的障がいを有する人々の1日も早い社会復帰、自立に向け、以下の活動を支援
 - ・学校に通うための車イスの寄贈
 - ・職業訓練の実施対象国は、ラオス、ミャンマー、カンボジアを中心とする予定。

2022年度事業計画書

以下内容で全国募金を実施。

募 金 活 動 名：アジア障がい者支援募金

募金受付方法：ホームページ、及び、募金実施協力事業所での募金受付。

贈 呈 先：認定NPO法人「難民を助ける会（AAR Japan）」

《募金目論見書》

募金目的：身体的障がいをもつ人々の社会復帰を支援する組織、団体の支援。

募集総額：15,000千円

募集期間：2023年1月11日（水）～2月10日（金）

募集理由：我が国が存するアジア各国では、こうした教育の貧困が生活貧困に連鎖している人々が多くいることを知ってもらい、一人でも多くの方に支援を呼びかける。

資金使途：認定NPO法人「難民をたすける会」を通じ、障がいをもつ人々を支援

そ の 他：募集総額に当財団が一定額を上乗せ加算し、障がい者支援に充当。

⑤ 重点取組：贈呈式には各国大使館代表者にも参加を呼びかけ、活動内容を報告。

●その他事業（法人会計）

1. 広報活動

(1) 概要書及びDVD

- ① 標 題：概要書制作
- ② 活動概要：イオン1%クラブの創設趣旨や事業目的に重点を置き、象徴的な写真を見開きで見せることで、事業内容をわかりやすく伝えるもの。英語版・中国語版も制作。デジタル化することで配布先・設置先の拡大を図る。当財団の活動に、より深い賛同と協力を得ることを目的に、今期より四半期報告書の発行を開始する。
- ③ 実施期間：2022年4月1日（金）～2023年3月31日（金）
- ④ 配布対象：事業参加者、学校関係、各国大使館、各省庁、NPO・NGO、取引先、寄付企業、マスコミ他
- ⑤ 重点取組：昨年度のトピックを盛り込みつつも、当財団の創設趣旨や事業目的が正しく伝わるよう参加者のコメントページを追加。四半期報告書を新たに作成し、当財団と連携する各社の取り組みを掲載

(2) ホームページ

- ① 標 題：ホームページ更新
- ② 活動概要：タイムリーな更新を図り、更新頻度を高めることで、ページ訪問者の滞在時間を延ばし、各事業の報告ページのPV（ページビュー）数を高める
- ③ 実施期間：随時
- ④ 参加対象：ネット閲覧可能者

2022年度事業計画書

- ⑤ 重点取組：タイムリーなHP、FB上での情報開示を継続し、HPとSNSの連係を通じた広報活動を強化。新たにTwitterを開設し、口コミによる情報の拡散を図る。

(3) 外部イベント参加費

- ① 標 題：イベント出展を通じたPR活動
- ② 活動概要：各国のフェスティバル、NGOや社会貢献活動団体等を対象としたイベント等に出展し、当財団の活動PRを行う
- ③ 実施期間：2022年4月1日（金）～2023年3月31日（金）
- ④ 参加対象：イベント参加者、各国大使館、各省庁、NPO・NGO等
- ⑤ 重点取組：大使館や各省庁が主催するイベントへ参加することで連携強化を図る

2. 寄附及び協賛

(1) アジアの祭典

3. 団体会費

- (1) ジャパンプラットフォーム会費
- (2) 公益財団法人花と緑の農芸財団 会費
- (3) 公益財団法人公益法人協会 会費

以上